

## 日本マンガにおけるオノマトペ(2) : 単位語から見た使用傾向

陳, 佳雯  
九州大学大学院比較社会文化学府

<https://doi.org/10.15017/4494598>

---

出版情報 : 比較社会文化研究. 16, pp. 47-54, 2004-10-28. 九州大学大学院比較社会文化研究科  
バージョン :  
権利関係 :

## 日本マンガにおけるオノマトペ (2)

— 単位語<sup>1</sup>から見た使用傾向 —

チン 陳      ジャ ウン  
                 佳 雯

マンガにおけるオノマトペの特徴については既に諸氏によって様々な見解が指し示されている。しかし、マンガに使用されたオノマトペの語型を明らかにした研究は、まだ発展の余地があるのが現実であろう。本稿では、日本のマンガに使用されたオノマトペには諸先行研究が指摘した臨時オノマトペがあることを認め、それらを含めたオノマトペは、一体どのような語型を持ち、いかなるパーセンテージをなしているかについて、数量的分析を試みる。なお、本研究は本紀要第14号の拙稿<sup>2</sup>の続編である。また、社会言語科学会第13回ポスター発表<sup>3</sup>の場で色々意見を頂いて修正したものである。

### 1. 概 観

マンガのオノマトペの使用傾向に関して、寿岳(1965)は、オノマトペは男マンガの方に圧倒的に数多く使用されるとい結論を導き出した。時代の流れと共にオノマトペの使用傾向は変化していくことは不可避である。この研究から40年が経過し、現在のマンガのオノマトペはどのような傾向を示しているのだろうか。

日向(1986)によれば、マンガの擬音語は逸脱形を自由に生み出せるから、擬態語に比べて、標準形またその同類語、類義語から大きく逸脱する傾向が見えると述べている。また、同氏によると、マンガの効果音である擬音語・擬態語の比重は擬音語に片寄っている。その後、越前谷(1989)が行った数量的分析によると、擬音語は圧倒的優位ではなくなっている。

ところで先行研究では、オノマトペの臨時形のほかに逸脱形、変異形、強調形などいくつかの言葉をよく目にするが、あいまいな定義をなしているのが現実である。日向

(1986:82)が語形分類する際、「『浅野辞典』の標準形に同じもの」、「『浅野辞典』の同類語・類義語に同じもの」と「『浅野辞典』に取り上げていないもの」の3種類に分けている。越前谷(1989:47)は日向の方法にそっているが、「辞書の見出し語・同類語にいきつくもの」の1項目を新たに加えた。そして、それを「変異形」と呼び、どこにもないものを「逸脱形」としている。しかし、本稿では「逸脱形」を使わず、「造語型」という語を使用する<sup>4</sup>。また臨時的オノマトペに関しては田守(2002)に詳しく紹介されている。

越前谷は新しい語型を取り入れることによって、より精緻な分析の枠組みを立てた。しかし、越前谷の行った語型の分析は、調査対象のオノマトペのごく一部のみを抽出して行った結果に過ぎない<sup>5</sup>。従って、本研究では、抽出したオノマトペ全体を対象に語型の分類を行い、オノマトペの使用語型を再度検証したい。

### 2. 分析前の作業

#### 2.1 分析対象の資料

表1は今回の分析対象となったマンガ雑誌の資料である。マンガ雑誌の選定法は注2の拙稿を参照されたい。

本研究は読者の性別と年齢層に基づいて、マンガ雑誌を6つの層に分ける。その6つの層から、各2冊を選び出し、本研究の分析対象とした。取り上げられたマンガ雑誌は合計12冊である。作品の数から見ると全部で222作品あり、218名の作家の作品を網羅している。

単行本を調査対象とする先行研究の場合、3つの問題点があることを前稿で指摘した。①ジャンルの配慮、②作家によるオノマトペの使用偏向、③作品の発表年度に関する問題である。本研究は同じ時期のマンガ雑誌を使うことに

1 “数えられた単語の総数を延べ語数、数えられた単語のことを単位語 (token, running words) という。” 伊藤雅光 (2002) 『計量言語学入門』24頁。

2 陳佳雯(2003)『日本マンガにおけるオノマトペ(1)―数量的調査対象及び基準を基盤に―』『比較社会文化研究』第14号、九州大学大学院比較社会文化学部。E-mail: jiawen.jp@yahoo.co.jp

3 2004年3月27-28日、社会言語科学会第13回大会於東京工芸大学中野キャンパス。http://www008.upp.so-net.ne.jp/jass/

4 本稿では「形」と「型」を分けて使用する。「形」は表に出る語形のことに対して、「型」は語の種類を指している。

5 越前谷が行った語型の分類に使われた資料は次のようである。「ブッダ」第1巻全12章のうち第1章の45語と「日出処の天子」異なり語数113語のうち、使われた順に最初からの50語、合わせて95語のみである。また、全調査対象に関する延べ語数と異なり語数の情報は論文に明示しなかった。

◆表1：マンガ雑誌に収録された作品の情報◆

層別	雑誌名	作品本数	作家人数	総頁数	平均頁数
子供	コロコロコミック(A)	25	24	479	506
	コミックボンボン(B)	23	22	533	
少年	少年マガジン(C)	22	22	401	382
	少年ジャンプ(D)	20	20	363	
少女	りぼん(E)	21	21	407	385
	ちゃお(F)	17	16	363	
青年	ヤングジャンプ(G)	21	21	325	307
	ヤングマガジン(H)	22	21	289	
女性	YOU(I)	16	16	347	358.5
	BE LOVE(J)	16	16	370	
成人	快樂天(K)	11	11	200	209.5
	カーマ(L)	8	8	219	
合計	12(冊)	222(作)	218(人)	4296(頁)	/(頁)

より、これらの問題点を解消することができる。また作品や作者によるオノマトペの使用偏向をなくすことによって、マンガにおけるオノマトペをより客観視することができる。マンガ雑誌には多種多様なマンガ作品が収録されているため、マンガ雑誌から抽出されたオノマトペの使用傾向調査としてはより信頼度が高まる。

## 2.2 参考辞書

オノマトペの多様な意味を判別する際に利用した辞書は次の5冊である。

『暮らしのことは擬音・擬態語辞典』——山口仲美、講談社(2003)

『現代擬音語擬態語用法辞典』——飛田・浅田、東京堂(2002)

『擬音語・擬態語の使い方辞典』第二版、——阿刀田・星野、創拓社(1998)

『擬音語・擬態語の読本』——尚学図書、小学館(1991)

『擬音語・擬態語辞典』第五版、——浅野、角川書店(1985)

しかし、この5冊をよく対照させると、編集の目的に合わせて、それぞれ収録されている見出し語について差異が見られる。もちろん、見出し語から派生した同義語や類義語の収録も異なっている。たとえば、飛田の『現代擬音語擬態語用法辞典』では、人間の声に現れる擬音語で、感動詞の用法が主であるものが除かれている。また、「さー」と「さーっ」の両方の表記が可能な語形については、「さー(っ)」の形で統一し、見出し語として掲載される場合もある<sup>6</sup>。山口の『暮らしのことは擬音・擬態語辞典』では、馴

染みのない「□□んっ」の語形が類義語として挙げられている。これらのことを考えると、これから分析の作業に移るにあたって、どの1冊を取り上げて、その辞書の見出し語の分類基準として参照するかは選択の難しいところである。従って、マンガ雑誌から採集してきたオノマトペの分類作業に移る前に、まずこの5冊の総索引を作ることから始める。

実際の作業では、この5冊の辞書の採録語彙を50音順で入力する。各辞書の見出し語として採録された語を赤色で他の語と区別する。次に、どれかの辞書に見出し語として採録されている場合、その語を本研究の見出し語として認定する。そうでない語を見出し語の同類語・同族語・類義語とする(本研究では「類縁型」と称する)。以上のような作業を終え、この5冊の辞書の総索引を完成させる<sup>7</sup>。

## 2.3 分析項目

マンガに使用された語型は必ずしも辞書に掲載された見出し語と一致しないことがしばしば見られる。では、マンガに使用されたオノマトペはどのような語型から構成されているのであろうか。日向と越前谷が行った語形分類の概念が有用である。また田守が整理した臨時オノマトペの概念も用いる。本稿は主に越前谷の方法に従い、マンガから収集したオノマトペ(単位語)を次の4つの項目に分類する<sup>8</sup>。

- ①「辞書型」：上述5冊の辞書のどの1冊にも「見出し語」として掲載された語と全く同一の語。
- ②「類縁型」：辞書の「見出し語」の同類語・同族語・類義語と同じもの。
- ③「変異型」：辞書の見出し語、同類語・類義語に、さらに促音や長音、撥音などを挿入するといった工夫をすることによって、より臨場感を生み出す働きかけをしている語のこと。変異型の場合、原型である見出し語・同類語・類義語を推測することができる。つまり、「辞書型」「類縁型」にいきつくもの。
- ④「造語型」：辞書を調べても原型さえ見当たらない語のことを指す。その殆どは作者の創作や他の作品からの模倣のようなものである。擬音語の部分は音の模写が殆どに対して、擬態語の部分は複合オノマトペ(ワヤワヤ=わいわい+がやがや)や動詞のます形(脱ぐ⇒ぬぎっ)から構成されているものが観察される。

6 当該辞書<凡例>“第一項目”と<本書の特色と使い方>“二 見出し語の表記について”を参照。

7 集めた総語数は3,426語で、うち2,083語が見出し語である。この数値を山口の辞書の見出し語1,385語、飛田の辞書の見出し語1,064語と比べたら、思ったより大きいと思われる。それは、他の辞書の収録語彙にも由来するが、語彙を整理するに際し、飛田の辞書での促音に対する「さー(っ)」のような表記をそれぞれ「さー」と「さーっ」に還元した結果にも由来するためである。

8 本稿では、②③④を広義の臨時形とし、③④を狭義の臨時形とする。但し、先行研究によって、どこまでを臨時形と称しているかについても差異がある。

### 3. 分析

#### 3.1 1頁当たりのオノマトペの使用語数

表2は今回調査してきたオノマトペの単位語を数字化したものである。抽出したオノマトペは全部で9,947語である。なお、前稿では、電話の「RRR」や寝鼾の「ZZZ」、走

る音である「DADADA」、そして漢字の「怒」などをオノマトペとして認めているが、今回の調査では英文字や漢字を使ったオノマトペは併せて20語であり、極めて少なく、限られた作者の作品しか現れていない。今回はこれらの語を分析対象から外すことにする。

◆表2：読者層別から見た擬音語・擬態語の延べ語数と使用率◆

層別	擬音語		擬態語		オノマトペ全体	
	個別	層平均	個別	層平均	個別総和	層平均総和
子供 (AB)	787 (52.7%)	765.5 (51.3%)	706 (47.3%)	727.5 (48.7%)	1493 (3.12w)	1493.0 (2.95w)
	744 (49.8%)		749 (50.2%)		1493 (2.80w)	
少年 (CD)	481 (51.7%)	478.5 (53.7%)	450 (48.3%)	412.0 (46.3%)	931 (2.32w)	890.5 (2.33w)
	476 (56.0%)		374 (44.0%)		850 (2.34w)	
少女 (EF)	288 (44.8%)	327.5 (41.0%)	362 (55.7%)	470.5 (59.0%)	650 (1.60w)	798.0 (2.07w)
	367 (38.7%)		579 (61.2%)		946 (2.61w)	
青年 (GH)	257 (54.3%)	343.0 (61.6%)	216 (45.7%)	214.0 (38.4%)	473 (1.46w)	557.0 (1.81w)
	429 (66.9%)		212 (33.1%)		641 (2.22w)	
女性 (IJ)	180 (44.4%)	191.5 (41.2%)	225 (55.6%)	273.0 (58.8%)	405 (1.17w)	464.5 (1.30w)
	203 (38.7%)		321 (61.3%)		524 (1.42w)	
成人 (KL)	481 (52.7%)	383.5 (49.8%)	449 (48.3%)	387.0 (50.3%)	930 (4.65w)	770.5 (3.68w)
	286 (46.8%)		325 (53.2%)		611 (2.79w)	
合計	4979 (50.1%)	/	4968 (49.9%)	/	9947	/ (2.32w)

\* w：1頁に当たりの使用語数。単位：単位語

オノマトペの延べ語数を見てみると、読者の年齢層が若ければ若いほどオノマトペが頻繁に使われているように見える。ただし、マンガ雑誌自体のページ数が異なっているので、1頁当たりのオノマトペの使用度数を計算してみると、表2で提示したように、子供マンガ(AB)では2.95語で、少年マンガ(CD) 2.33語、少女マンガ(EF) 2.07語、青年マンガ(GH) 1.81語、女性マンガ(IJ) 1.30語である。オノマトペの1頁当たりの使用語数について、いくつかの論文がその数値を提示した。ただし、マンガ作品が異なれば、数値も異なってくるはずである。本研究では、オノマトペの1頁あたりの使用語数は読者の年齢に関係していることが観察できた。つまり、読者層の年齢が上がるにつれ、1頁当たりのオノマトペの使用語数が減少する傾向が分かる。また、同じ年齢層から見る〔少年・少女マンガ〕と〔青年・女性マンガ〕では、男性向けマンガにおける1頁あたりのオノマトペ使用語数は女性向けマンガのそれより上回ることが観察できる。(2.33語>2.07語；1.81語>1.30語)。しかし、成人マンガでは、1頁当たりのオノマトペ使用語数が急に増え、1頁当たり3.68語となり、子供マンガのそれをはるかに超えた。その理由を追求することは本稿の目的ではないが、成人(アダルト)マンガは刺激を目的として描かれたものであるため、画面の中に意図的に多くのオノマトペが描き込まれていると思われる。

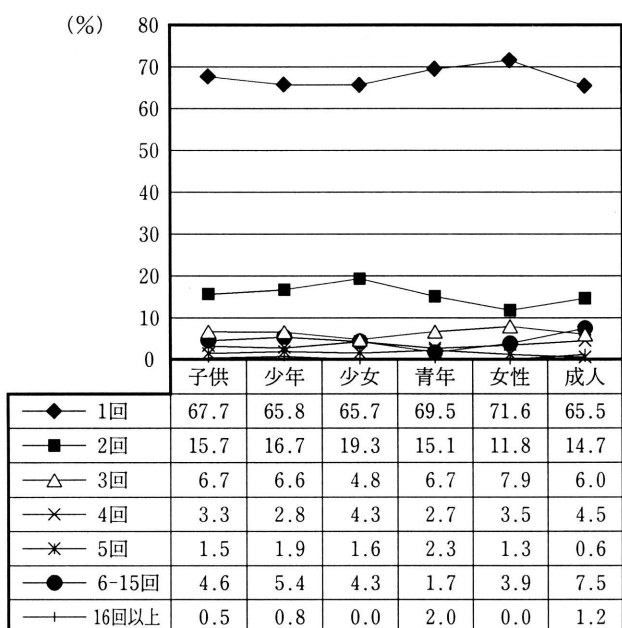
#### 3.2 オノマトペの使用度数

図1、図2は表3の数値からパーセンテージに換算したものである。図1、図2から分かるように、元の単位語の使用度数が1回の場合が約65%~70%前後である。言い換えれば、約7割の単位語があらゆるジャンルのマンガにおいてただ一回しか使用されていないのである。また、同じ語の2回以内の累積使用率は擬音語83%と擬態語85%で、3回以内は擬音語90%と擬態語91%で、5回以内は擬音語、擬態語共に95%となっている。マンガにおいては、同じ語を重複して使用することは殆どなく、読者に厭きを感じさせない工夫が凝らされている。

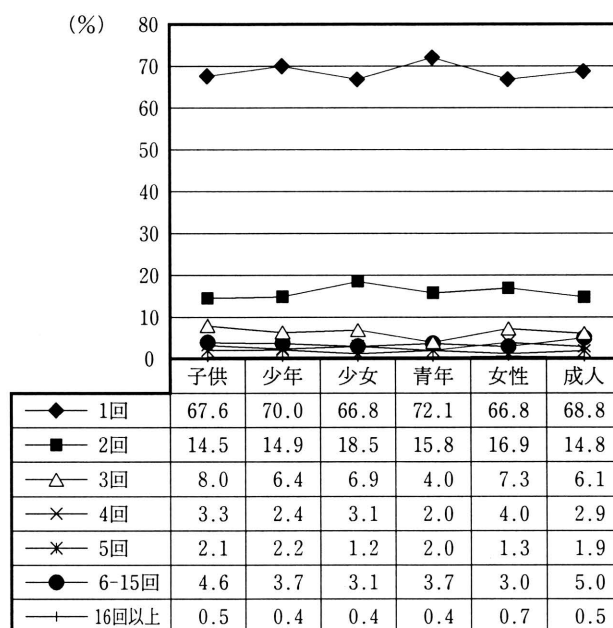
◆表3：単位語から見たオノマトペの使用度数◆

語型／使用度数		1	2	3	4	5	6-10	11-15	16-20	21以上	合計	
語型 (単位語集合)	A+B	音	553	128	55	27	12	32	6	2	2	817
		態	513	110	61	25	16	22	8	2	2	759
	C+D	音	308	78	31	13	9	21	4	2	2	468
		態	319	68	29	11	10	14	3	1	1	456
	E+F	音	245	72	18	16	6	15	1	0	0	373
		態	346	96	36	16	6	10	6	1	1	518
	G+H	音	207	45	20	8	7	4	1	1	5	298
		態	178	39	10	5	5	6	3	1	0	247
	I+J	音	164	27	18	8	3	9	0	0	0	229
		態	201	51	22	12	4	9	0	2	0	301
	K+L	音	218	49	20	15	2	23	2	1	3	333
		態	260	56	23	11	7	15	4	1	1	378

◆図1：単位語の使用率【擬音語】◆



◆図2：単位語の使用率【擬態語】◆



### 3.3 擬音語と擬態語の使用割合

本研究はマンガ雑誌から抽出したオノマトペを従来の「擬音語／擬音語・擬態語／擬態語」のように3分して調査を行うのではなく、擬音語と擬態語に分け、統計処理を行ったのである。3分類していた先行研究では、擬音語と擬態語の使用割合を比較しているとき、両方の意味を持っている「擬音語・擬態語」グループを比較していない。確かに、「擬音語」と「擬態語」の境界線に位置した語が多数存在している。しかし、この2つの術語が存在することを前提にして、たとえ「擬音語」と「擬態語」の間にはっきりとした境界線を引くことができないとしても、2分類できる性質を持っているに違いない。そのため、中間位置に置かれたこの「擬音語・擬態語」グループを実際の使用状況に応じて、擬音語か擬態語の意味の強い方に分類した。また、マンガの場合、先稿でも触れたように、心の中の叫び声は必ずしも音声を持つ擬音語ではなく、擬態語に分

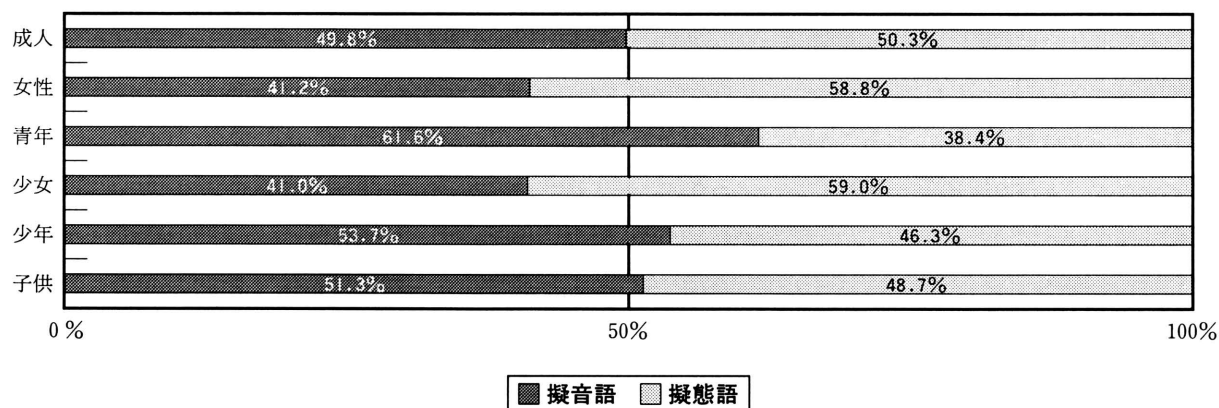
類するのが適切である。

表2から分かるように、マンガ雑誌ごとに、擬音語と擬態語の使用割合にはバラつきがある。しかしながら、各層の平均値は各マンガ雑誌の擬音語・擬態語の使用偏向をよく語っている。図3は、表2の各層平均欄を図式化したものである。

子供マンガ、少年マンガと青年マンガは擬音語の使用が擬態語より多いという傾向が分かる。子供マンガでは擬音語対擬態語の差はほぼ無いに等しいのに対して、青年マンガでは約6対4の割合で使用されている。青年マンガでは、車レースなどによるエンジンの音が、子供・少年マンガでは機械（ゲーム）の衝突音がそれぞれの持つ特徴である。

少女マンガと女性マンガにおける擬音語と擬態語の使用率は極めて似ている。青年マンガの擬音語6割対擬態語4割と対称的に、この2つの読者層では擬音語対擬態語の使用率は約4対6である。既に先行研究が明らかにしている

◆図3：マンガ読者層による擬音語と擬態語の使用率◆



が、女性マンガは恋に関するものなどが多いため、心的表現に関する擬態語の使用が多いということと「擬音語の圧倒的優位」は女性マンガには当てはまらないことを本研究の調査でも立証できる。

調査を始める前、成人マンガは喘ぎ声などの擬音語が多いのではないかと考えていた。実際に調査したところでは、擬音語と擬態語はほぼ同等の割合で使用されていることが分かった。なぜ擬態語も多く使われているのかというと、「ずっ」「びく」「ぶるぶる」「ぐい」「ぎゅっ」「がくがく」などといった身体関係の動きに関する擬態語の占める割合が多かったためである。

以上の分析から分かるように、子供マンガと成人マンガは擬音語対擬態語の使用率がほぼ5対5であり、少年マンガと青年マンガでは擬音語の使用率が擬態語より多く、それと対称的に少女マンガと女性マンガでは擬態語の使用率は擬音語より多い。また、少女マンガと女性マンガ、そして子供マンガと少年マンガは、擬音語対擬態語の使用率に類似した一致性が見られる。

### 3.4 読者層別から見た語型の使用傾向

#### 3.4.1 擬音語の場合

図4の擬音語の語型使用状況から見ると、「辞書型」の使用率が最大になったのは少女マンガ・女性マンガという女性向けのマンガである。さらに、女性マンガは逸脱しやすい擬音語に対して、約半分近く（48.1%）の高い使用率で「辞書型」が使用されている。このことから、女性マンガはより「辞書型」の使用を好んでいることが今回の調査で分かった。それと対称的に、最も「辞書型」を使用しないのは子供マンガである。「辞書型」を使用したものは約4分の1の割合である。他のマンガ読者層では約3割弱で「辞書型」が用いられている。

少女マンガ、女性マンガと成人マンガでは、オノマトペの「変異型」が約3割前後の割合で使用されている。それに反して、男性向けマンガではかなり高い数値の使用率で「変異型」が使われている。特に子供マンガと少年マンガがほぼ5割近い高使用率で「変異型」を使用していることは、図4を見れば一目瞭然である。

「類縁型」はどの読者層においても、1割前後の使用率である。

ところで、オノマトペの「類縁型」は比較的「辞書型」に近いものであるため、試しに「辞書型」と「類縁型」を合わせてみよう。すると、子供マンガと少年マンガだけにはやはり「変異型」が辞書の掲載語より多く使われていることが分かる。<sup>9</sup> この2つのマンガ読者層はより音声による臨場感の溢れる画面を求めるため、擬音語のバリエーションも他の読者層より豊富であると言える。

擬音語の「造語型」はほぼ各マンガ読者層において3位の使用率で、2割以内の使用率となっているが、成人マンガだけが高い使用傾向を示している。アダルトジャンルにおいては、音声の多種多様な変化から読者を満足させる意図がかなりあると言える。

また、成人マンガを除く他のマンガ読者層の性別を分けて見よう。つまり、子供マンガから少年マンガ、そして青年マンガという男性向けの読者層ルートと、子供マンガから少女マンガ、そして女性マンガという女性向けの読者層ルートにおける語型の使用状況を確認していこう。どちらも想定した読者層の年齢が上がるにつれ、「辞書型」の使用率が増え、「変異型」の使用率が減っていくことを見て取れる。<sup>10</sup>

9 25.1%+7.1%=32.2%<49.4%；31.0%+6.2%=37.2%<45.1%

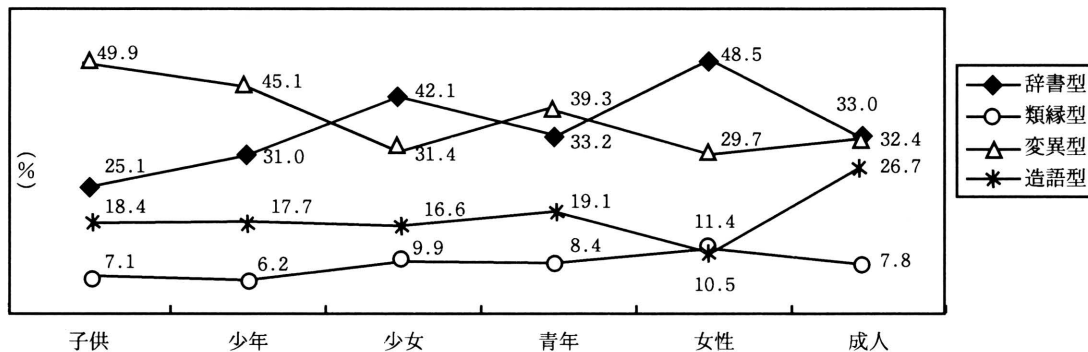
10 男性向けルートでは、辞書型：25.1%→31.0%→33.2%と増え、変異型：49.4%→45.1%→39.3%と減る。女性向けルートでは、辞書型：25.1%→42.1%→48.5%と増え、変異型：49.4%→31.4%→29.7%と減る。「類縁型」と「造語型」に関しては、この現象は顕著ではない。

◆表4：擬音語の単位語から分類した語型◆

		語 型					延べ語数
		辞書型	類縁型	変異型	造語型	合計	
子供	A	101	24	200	94	419	787
	B	104	34	204	56	398	744
	AB 平均	102.5	29	202	75	408.5	765.5
	比例(%)	25.1%	7.1%	49.4%	18.4%	100%	/
少年	C	78	18	94	41	231	481
	D	67	11	117	42	237	476
	CD 平均	72.5	14.5	105.5	41.5	234	478.5
	比例(%)	31.0%	6.2%	45.1%	17.7%	100%	/
少女	E	70	18	54	26	168	288
	F	87	19	63	36	205	367
	EF 平均	78.5	18.5	58.5	31	189	331.5
	比例(%)	42.1%	9.9%	31.4%	16.6%	100%	/
青年	G	51	17	57	20	145	257
	H	48	8	60	37	153	429
	GH 平均	49.5	12.5	58.5	28.5	149	343
	比例(%)	33.2%	8.4%	39.3%	19.1%	100%	/
女性	I	54	14	29	11	108	180
	J	57	12	39	13	121	203
	IJ 平均	55.5	13	34	12	114.5	192.5
	比例(%)	48.5%	11.4%	29.7%	10.5%	100%	/
成人	K	63	17	61	54	195	481
	L	47	9	47	35	138	286
	KL 平均	55	13	54	44.5	166.5	383.5
	比例(%)	33.0%	7.8%	32.4%	26.7%	100%	/

単位：単位語

◆図4：擬音語の語型使用状況◆



3.4.2 擬態語の場合

図5は表5に基づいて図式化した擬態語の各語型の使用状況を示しているものである。図4と比較すると、波の起伏が小さく安定した使用状況であることが分かる。オノマトペの「辞書型」の使用は多かれ少なかれ、どのマンガ読者層においても1位の使用率を得ている。しかも平均で5割の高使用率で使用されている。読者層の中で「辞書型」の使用が最下位となっている成人マンガでも37%の使用率である。中でも、青年と女性読者層は若い読者層である子供・少年・少女読者層より擬態語の「辞書型」を多く使っ

ていることが明らかである。「辞書型」が他の語型より多用されている。それは、擬態語は語としての安定度が高いためとも推測できる。

擬態語の2位を占めているのはどのマンガ読者層においても「変異型」である。使用されている割合もほぼ3割前後で一致している。また、擬音語の場合と同じように性別ルートから見ると、やはり想定した読者層の年齢が上がるにつれ「辞書型」の使用率が増えていき、「変異型」の使用率が減っていく傾向が見られる。<sup>11</sup>

成人マンガを除いて、「類縁型」と「造語型」は擬態語に

11 男性向けルートでは、辞書型：40.7%→47.4%→55.1%と増え、変異型：38.5%→32.5%→29.1%と減る。女性向けルートでは、辞書型：40.7%→47.5%→52.2%と増え、変異型：38.5%→34.5%→30.6%と減る。「類縁型」と「造語型」についても、擬態語の場合と同様に、この現象は顕著ではない。

において、あまり差異を示していない。擬音語における「造語型」は2割未満で使用されているのに対して、擬態語の場合は1割くらいである。また、3.3.1でも見たように、成人マンガは擬音語においても「造語型」が他の読者層よ

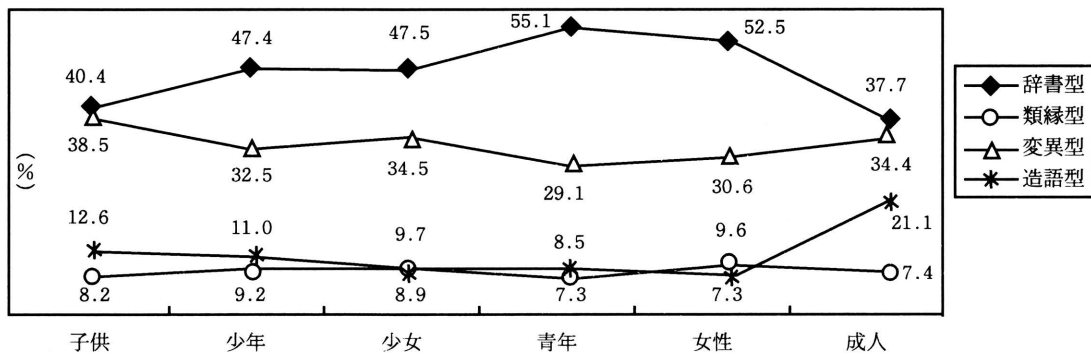
り多用されている。他の語型の使用は他のマンガ読者層とあまり変わらないが、擬音語においても、擬態語においても「造語型」の多用が成人マンガの特徴であると言える。

◆表5：擬態語の単位語から分類した語型◆

		語 型					延べ語数
		辞書型	類縁型	変異型	造語型	合計	
子 供	A	147	36	147	44	374	706
	B	162	26	145	52	385	749
	AB 平均	154.5	31	146	48	379.5	730
	比例(%)	40.7%	8.2%	38.5%	12.6%	100%	/
少 年	C	109	27	70	23	229	450
	D	107	15	78	27	227	374
	CD 平均	108	21	74	25	228	412
	比例(%)	47.4%	9.2%	32.5%	11.0%	100%	/
少 女	E	111	21	80	25	237	362
	F	135	29	96	21	281	579
	EF 平均	123	25	88	23	259	472.5
	比例(%)	47.5%	9.7%	34.5%	8.9%	100%	/
青 年	G	74	12	41	11	138	216
	H	62	6	31	10	109	212
	GH 平均	68	9	36	10.5	123.5	214
	比例(%)	55.1%	7.3%	29.1%	8.5%	100%	/
女 性	I	73	15	37	10	135	225
	J	84	14	55	13	166	321
	IJ 平均	78.5	14.5	46	11.5	150.5	273
	比例(%)	52.2%	9.6%	30.6%	7.6%	100%	/
成 人	K	84	22	75	47	228	449
	L	56	6	55	33	150	326
	KL 平均	70	14	65	40	189	387.5
	比例(%)	37.0%	7.4%	34.4%	21.1%	100%	/

単位：単位語

◆図5：擬態語の語型使用状況◆



3.5 まとめ

先行研究の結果と類似している点も、異なっている点も見られた。これまで調査した結果を以下の通り整理してみる。

- ① マンガ読者の年齢層が低ければ低いほど、オノマトペが多用されている。ただし、成人マンガは例外である。また、同年齢層の男性向けマンガは女性向けマンガよ

り、オノマトペを多用している。

- ② 読者に厭きを感じさせないために、約7割前後の単位語があらゆるジャンルのマンガにおいてただ1回しか使用されていない。
- ③ 読者層別における擬音語・擬態語の使用率は、男性向けマンガ(少年・青年)において、擬音語の使用率が擬態語より上回る。それに対して、女性向けマンガ(少



女・女性)においては擬態語の使用は擬音語より多い。子供マンガと成人マンガにおいては、擬音語と擬態語の使用率はほぼ5対5である。

- ④ 擬音語において、少女・女性・成人マンガは「辞書型」の方が多用されているという結果が判明した。子供・少年・青年マンガは「変異型」が高使用率で使われている。特に、子供マンガには、擬音語の「変異型」が5割近い使用率で他の読者層よりひときわ目立つ。各読者層において「類縁型」は1割前後で、「造語型」は約2割以内で使用されているが、成人マンガだけが25%を超えた使用率で「造語型」を使用している。
- ⑤ 擬態語において、どの読者層においても約5割前後で他の語型より「辞書型」を多用している。次に「変異型」が2位を占める。「類縁型」と「造語型」は共に1割前後の使用率であるが、成人マンガだけが「造語型」を2割弱使用している。
- ⑥ 擬音語でも、擬態語でも、男女読者層とも年齢が上がると、「辞書型」の使用率は増えていき、「変異型」の使用率は減っていく傾向が見取れる。読者層年齢が上がれば上がるほど「変異型」から「辞書型」を好むようになっていく傾向が見られる。

#### 4. 結 論

本研究では、マンガにおけるオノマトベについて、前稿で数量的調査の基盤作業を行った。数量化研究を行うにあたって、サンプリングの方法は最も重要な事柄である。マンガにおけるオノマトベの普遍的な使用傾向を指摘する場合、単行本を調査対象とすることの不適切な点を提示し、調査対象をマンガ雑誌にした。また、考察の対象を幅広く取り、読者の年齢と性別を考慮にいれ、調査対象を「子供マンガ」、「少年マンガ」、「少女マンガ」、「青年マンガ」、「女性マンガ」、「成人マンガ」の6つの層に分けた。一貫した観点に基づき、マンガのオノマトベを抽出し、①辞書型、②類縁型、③変異型、④造語型の4項目からその使用傾向を数量的に分析してきた。調査した結果には、3.5のようにまとめることができる。

マンガはその場の臨場感を醸し出すため、擬音語・擬態語の両方とも臨時形が多く使用されている。しかも、擬態語と比較して、擬音語の方が臨時形を創作しやすい性質を持っていることは既に指摘されている。この点に関して、本研究の分析は先行研究の分析結果を支持している。しかし、本研究はマンガに使用されたオノマトベを4つの語型に分け、この4つの語型がそれぞれオノマトベ全体に占める割合を導き出した結果、臨時形の多用はマンガ読者層に

関係していることが明らかになった。また臨時形が目立つことに注目する一方、「辞書型」が多用されることも看過できない。なぜなら、分析が一面的なものになる恐れが生じるからである。

以上、考察してきたように、40年の歳月を経ても、男性向けマンガには女性向けマンガよりオノマトベが多用されていることが観察できる。この点に関しては寿岳(1965)の分析結果と合致している<sup>12</sup>しかし、異なる点もある。それは、オノマトベの使用傾向は読者の年齢層にも関係していることである。つまり、マンガ読者の年齢層が低ければ低いほど、オノマトベが多用されている。寿岳の研究では、男女向けに大別してマンガ作品を取り上げているため、オノマトベの使用が読者の年齢にも関連していることを明示できない。従って、本研究の分析結果が示すように、オノマトベの使用は読者の性別以外、年齢に関連するという点を考慮に入れた分析視座を取り入れることが今後必要とされよう。

また、成人マンガは作者による「造語型」が多く使用されることから、他の読者層より異質のオノマトベの世界を味わえる。

今回の調査では、量的に言えばそれほど大量とはいえないが、単行本調査の欠点を克服して、マンガ読者層ごとの特徴を見出すことができた。

#### 辞書：

- 阿刀田稔子、星野和子(1998)『擬音語・擬態語の使い方辞典』第二版、創拓社  
 浅野鶴子(1985)『擬音語・擬態語辞典』第五版、角川書店  
 日向茂男(1991)『擬音語・擬態語の読本』、尚学図書  
 飛田良文、浅田秀子(2002)『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版  
 山口仲美編(2003)『暮らしのことは擬音・擬態語辞典』講談社

#### 参考文献：

- 越前谷明子(1989)「マンガの擬音語・擬態語—作家に見る—」『日本語学』明治書院、pp44-52  
 寿岳章子(1965)「まんがの文体」『言語生活』筑摩書房  
 日向茂男(1986)「マンガの擬音語・擬態語(5)」『日本語学』Vol. 5 (11)、明治書院、pp81-108  
 伊藤雅光(2002)『計量言語学入門』大修館  
 田守育啓(1991)『日本語オノマトベの研究』神戸商科大学経済研究所  
 田守育啓、ローレンス・スコウラップ(1999)『オノマトベ—形態と意味—』くろしお  
 田守育啓(2002)「四 表現者のオノマトベ」『オノマトベ 擬音・擬態語をたのしめる』岩波書店、pp108-132  
 沼田善子(1989)「表記論として見たマンガのことは」『日本語学』Vol. 8 (9)、明治書院  
 山口仲美(2002.08)「(2) 擬音語・擬態語のかたち」『犬は「びよ」と鳴いていた』光文社、pp25-33

12 但し、オノマトベの採り方に異なった箇所があることをお断わりしておく。